

春風秋霜 9月号

令和7年9月22日
島田市教育委員会日より
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 静岡大学工学部が開発した人工衛星が打ち上げられました

令和7年8月25日の静岡新聞に、「静大衛星蓬莱打ち上げ 宇宙エレベーター、ごみ対策」というタイトルで、静岡大学の工学部の研究室で超小型人工衛星を開発した「蓬莱（ほうらい）」（STARS-Me2）が、日本時間の24日午後、アメリカ南部フロリダ州ケープカナベラル宇宙軍基地から国際宇宙ステーション（ISS）に向けて打ち上げられましたという記事が掲載されていました。

静岡新聞には、「この衛星は8月24日の3時45分ごろに、アメリカのスペースXのロケット『ファルコン9』に他の物資とともに商業補給サービスミッションとして相乗りし、打ち上げられたものです。『蓬莱（ほうらい）』は、1辺10cmの立方体で、宇宙空間では、長さ約10メートルの金属テープ状のテザー（ロープ）を繰り出し、取り付けカメラで自機を撮影し、テザーの伸縮具合などを確かめ、宇宙エレベーターのケーブルの小規模実験につなげることになっており、宇宙ごみ対策としては、特許を出願していて、技術の向上を図る。」と紹介されていました。（出典：静岡新聞 令和7年8月25日、浜松総局・松浦直希氏 執筆）

また、令和7年9月10日の静岡新聞でも「夢の“橋”宇宙に架かれ」というタイトルでコラムが書かれていました。

コラムの中でこの人工衛星について、3つの特徴が挙げられていました。その特徴の3番目が以下のように書かれていたのです。「開発当初に多くの小中学生が関わった点で、教育機関である大学が開発した衛星としては、特に重要である。宇宙にちなんだ俳句を子供たちから募集し、極小の銘板に記して『蓬莱』に取り付けられました。衛星の愛称『蓬莱』は、大井川に架かる世界最長の木造歩道橋『蓬莱橋』にちなんで、21年、当時の中学3年生のアイディアが採用された。技術実証とともに、子供たちの科学への関心も高めてほしい。超小型の人工衛星に大きな願いがこもっている。」（出典：静岡新聞 令和7年9月10日、浜松総局・松浦直希氏 執筆）

今回打ち上げられたロケットに、島田とゆかりのある「蓬莱」という名前を冠した衛星が宇宙に運ばれたと聞いて、さらに、宇宙が身近になったような気がしました。皆さんも、宇宙が身近に感じられたのではないのでしょうか。

今回、静岡新聞の記事を紹介しましたが、静岡大学が考えた最初の提案は、「宇宙エレベーター」の構想でした。私も最初その考えを聞いたときに、宇宙までつながるエレベーターができたらすごいなという思いと、宇宙まで行くためのエレベーターなんてできないだろうという思いが強かったです。

最近日本の技術は、劣っているという人がいますが、決してそんなことはないと思います。有名な「富岳」という日本のスーパーコンピュータも、複数のランキングで世界一位を獲得しています。また、QRコードも（旧）日本電装の原昌弘さんという日本人の方が開発者です。自動車部品の製造現場の効率化をイメージして開発されたそうですが、今は世界中どこでも使われており、最近では、電子決済等にも使

われています。手軽に使うことができることが利点のようです。改めて、日本人の頭の柔らかさや、斬新なアイディアに感動してしまいます。

自然科学分野で頑張っている記事を読むと、私も自作パソコンを組み立てて、動画編集や3D プリンターを使った実用品の制作などに挑戦してみたいという気持ちになります。

肘かけ椅子

「金魚好きのひとりごと」

スポーツ振興課長 山田 敏雄

猫頭、和唐内、高頭パール、桜東錦、オーロラ・・・

「らんちゅう」と聞けばぴんと来る方も多いかもしれませんが、これらは全て、金魚の品種名なのです。

中には「日本オランダ」などという、もはやどこの国の出身なのかさえ、さっぱり分からないような名前の金魚もいます。

金魚と言えば「金魚すくい」でお馴染みの和金や出目金を連想される方が多いのではないのでしょうか。金魚のルーツは中国から輸入された和金。元々はフナからの突然変異で「緋ブナ」と呼ばれる赤茶色の個性的な仔が生まれ、さらに見つかった特徴のある仔同士を何代にもわたって人工的に交配していった、今のようなたくさんの種類に分化していったと言われています。日本で進化した長い尾が特徴的な「朱文金」がイギリスのブリストル地方に亘り、さらに進化してハート形の華麗な尾を纏って帰ってきた「ブリストル朱文金」のようなすごい経歴の持ち主もいます。

私が暮らす焼津市には金魚専門店があり、金魚が大好きな私は月に1、2回はそこを訪れ、至福の時間を過ごしています。愛くるしい金魚達をじっくり見出すと、1時間なんてあっという間に過ぎてしまいます。金魚好きからすると、もしかしたら有名な水族館で珍しい魚たちを鑑賞するよりも楽しい時間かもしれません。金額もピンからキリまでで、1匹100円程度のシンプルな和金から、少しは自由に小遣いを使えるようになった現在でも購入を躊躇するような、一匹数万円の高級金魚さえいるのです。

私が特に好きなのは、通称「丸物」と呼ばれる、体も頭も全体的に球形に近く、先祖のフナからはすでに想像もつかないような形に進化した金魚たちです。そのような金魚達が大きく成長した姿は非常に見応えがあり、いくら仕事で疲れて帰宅した時でも、私を癒しの世界に引き込んでくれます。

一方で、そんな進化を重ねた魚たちはとてもか弱く繊細で、ほんの些細なことで途端に体調を崩し、少しでも放置していると加速度的に衰弱していつてしまいます。華麗な姿で私を楽しませてくれる金魚達ですが、人の手でその美しさのみを追い求めたあまり、とても自然界では生きていけないような繊細な生き物になってしまったのだらうと思います。そんな仔たちを精一杯お世話して快適に過ごしてもらうのもまた、彼らを生み出した人間の役目ではないかと考えています。